

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	日本語運用技術力の向上のための有効的教授法				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	竹部 歩美
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	坂巻 静佳
		所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	米山 優子
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	竹部 歩美

講演題目

大学生の日本語運用技術力向上のための指導法

研究の目的、成果及び今後の展望

1. 研究の目的

本研究は、本学学生が実社会で活躍するにあたって必要となる改まった場面における日本語、具体的には、日常生活における話し言葉としての言葉遣い、ならびに、電子メールなどの書き言葉としての言葉遣いについて、それがどのようなものであるかの理解を深めつつ、その運用技術力を高めることを目的とし、有効的で効果的な指導方法を見出すとともに、有効な教材の作成を目指すものである。

本学学生を含む日本語話者の、書き言葉・話し言葉の運用能力の低下は著しい。相当に丁寧な教育を継続的に施さなければ、その能力を身につけることは、日本語母語話者にとってすら非常に困難なものとなっている。その一方で、殊に近時の大学生は、学生である間から、たしなみのある日本社会の構成員として、正確な言葉遣いが強く要求されているという実情もある。

日本語を的確に運用する技術力は訓練によって体得されるものであるが、日常生活においても、また、本学の現行カリキュラムにおいても、この技術を学ぶ機会があるとは言い難い。そこで、本研究組織は、①電子メールの作成に必要なルールとマナーの指導、②敬語に関する基礎知識の指導、この2つの学習の機会を設けた。また、この学習に必要な教材について検討しそれに基づいて指導を行うこととした。さらに、この教育実践を通じて教材の有効性と適切な指導方法を検証することとした。

2. 研究の成果

本研究組織は、短期集中指導で一定の効果の得られる教材と教授法の開発に取り組み、これを用いて、国際関係学部生を対象に下記の(1)・(2)を実施した。(1)は個別添削指導に近い形式を採った。(2)は基礎事項に関する集団指導をする形式を採った。参加者からは「非常に役に立つ」「役に立つ」との評価を得た。

(1)「メールの書き方ワークショップ」の開催

①第1回講座…テーマ：「欠席」することを社会的地位の上位者に伝達するためにどのように日本語を運用すべきか（令和4年6月10日に実施）。

②第2回講座…テーマ：社会的地位の上位者に「依頼」するためにどのように日本語を運用すべきか（令和4年11月18日に実施）。

いずれも、日本語作文の方法について講義するとともに、事前に課した課題について参加学生により書かれた文章を添削しつつ、必要となる言語技術について解説し、指導を行った。

(2)「敬語実践講座」の開催（令和4年12月2日開催）

敬語の体系と「敬語とは何か」について概説したのち、事前に配布した敬語教材に基づいて解説を施しながら、規範的な敬語とは何かを教授した。

3. 今後の展望

本学学生が実践の場面でこれらを生かせるようになるためには、継続的な訓練が必要であるため、本研究組織は、今後も日本語運用技術力を高める場を設け、これに必要となる教材及び教授法のさらなる向上を目指していく。